

# 買物調査報告書 概要版

## I. 調査概要

### ○ 調査の目的

本調査は、県内消費者の買物傾向を分析することにより、市町別、商品別の商圈の実態等を把握し、魅力ある商店街づくりや地域商業機能の確保など、今後の中小小売業振興を適正に推進する基礎資料を得るために実施した。

### ○ 調査実施機関 三重県

### ○ 調査の実施方法

	郵送調査	街頭調査
調査方法	郵送によるアンケート調査	調査員による聞き取り調査
調査対象	人口比に従って、各市町の選挙人名簿より無作為に抽出した3,000世帯	県内の商店街8カ所及び大規模ショッピングセンター12カ所のお客様2,000名
実施期間	平成22年2月5日～2月20日	平成22年2月15日～3月20日 各調査箇所において平日1日及び休日1日

#### 【店舗の種類についての説明】

- ① 中小小売店：一般商店（店舗面積300㎡未満のもの）
- ② 中型店：中型のスーパーマーケット
- ③ 大型専門店：家電専門店等の単体大型専門店
- ④ 大型店：大型のスーパーマーケット、ショッピングセンター、百貨店（店舗面積1,000㎡超のもの）
- ⑤ コンビニエンス・ストア
- ⑥ 宅配販売：食料品等の生活必需品の宅配販売
- ⑦ 通信販売：本・CD・カメラ・衣料品等の、趣味・嗜好品の通信販売
- ⑧ その他：訪問販売・移動販売ほか

## II. 調査結果

### ○ 調査結果の概要（今回の調査結果から見た買物動向の特色）

- ・ 買物する店舗を選ぶ理由としては、「商品の種類や量の豊富さ」や「値段が安い」ことは、いずれの品目にも共通している。また、食料品や家庭電化製品では、「ポイントカード等を持っている」も理由の上位にあがっている。
- ・ 品目別の地元購買率（居住する市町内で購入する人の割合）を見ると、四日市市や松阪市など「いずれの品目も地元購買率が高い地域」と、亀山市や鳥羽市などの「生鮮食料品などの最寄り品の地元購買率は高いが、高級衣料をはじめとした買回り品の流出が高い地域」、大紀町などの「いずれの品目も地元購買率が低く、域外へ流出している」という3つのグループに分かれている。
- ・ 高級衣料やくつ・鞆などの買回り性の強い品目では、名古屋市や大阪市などの商業集積の高い地域への流出が目立っている。
- ・ 買物する店舗では、いずれの品目でも大型店が多くなっている。一方、中小小売店の利用が

高い品目としては、「時計・めがね・カメラ」や「書籍・文具」「楽器・CD」「医薬品・化粧品」「服飾品・宝石・貴金属」「贈答品」などがあり、街の薬局や書店などが健闘している状況もみられる。これらの品目では、対面販売の強みであるコンサルティングセールスによる情報提供が購買機会の増加につながっているものと考えられる。

中小小売店の強みとして、コンサルティングセールスがあげられるが、商店街にある小規模個店は客と店主が1対1での対面販売が可能である。対して大規模小売店舗では大人数の客を相手に販売し、対面販売が行われる機会が少なく、また客に対する販売後のフォローなども行われにくい。多くの商品が流通し、専門的な商品については、消費者が商品を選択する判断が難しいことから、1人1人のお客に対し商品選択へのアドバイスがきめ細やかに行われる商店街の小規模個店が支持されていると考えられる。

今後、商品の多様化や、高齢者が増える中で、このような期待を持つ消費者が増えると考えられる。小規模個店には、大規模小売店舗では難しい、消費者のニーズや不安にきめ細やかに応えられるサービスの提供が求められる。

- また、地域内の商圈形成では、明和町に周辺の市町からの買物の流入がみられ、大型店の新たな出店が影響していると考えられる。

## ○ 品目別の店舗選択理由

店舗選択理由で上位に入った項目を品目別にまとめると、「商品の種類・量が豊富」はいずれの品目でも上位3位以内に入っている。また、「商品の値段が安い」や「気軽に品選びができる」なども重視されている。

一方で、「品質（鮮度）の良い商品がある」は食料品・日用品雑貨で特に重視され、高級衣料においても4位に入っている。

また、「店に信用がある」は高級衣料、時計・メガネ・カメラ・宝石・貴金属、家庭電化製品などで上位に入っており、店舗選択の理由となっている。

さらに、特筆すべき点として食料品・日用品雑貨や家庭電化製品では「ポイントカード等をもっている」、スポーツ・レジャー用品では「駐車場がある」が店舗選択の理由に挙げられている。

表1 品目別の理由の上位5位

	食料品・日用品 雑貨	実用衣料	高級衣料	時計・メガネ・ カメラ・宝石・ 貴金属	スポーツ・レ ジャー用品	家庭電化製品
1位	品質（鮮度）の 良い商品がある 55.2%	商品の値段が安 い 50.5%	センスが良く、 流行品が多い 39.3%	店に信用がある 52.6%	商品の種類・量 が豊富 53.1%	商品の種類・量 が豊富 43.8%
2位	商品の種類・量 が豊富 40.7%	商品の種類・量 が豊富 42.0%	店に信用がある 35.7%	商品の種類・量 が豊富 33.8%	気軽に品選びが できる 30.7%	商品の値段が安 い 41.8%
3位	商品の値段が安 い 33.4%	気軽に品選びが できる 34.1%	商品の種類・量 が豊富 34.8%	センスが良く、 流行品が多い 17.7%	商品の値段が安 い 28.0%	店に信用がある 25.1%
4位	家や職場から近 くて便利である 28.9%	センスが良く、 流行品が多い 17.7%	品質（鮮度）の 良い商品がある 18.7%	商品の値段が安 い 16.7%	センスが良く、 流行品が多い 20.0%	ポイントカード 等をもっている 18.7%
5位	ポイントカード 等をもっている 16.4%	家や職場から近 くて便利である 11.8%	気軽に品選びが できる 17.2%	気軽に品選びが できる 16.2%	駐車場がある 11.1%	気軽に品選びが できる 16.7%

## ○ 品目別・市町別の地元購買率

各品目について地元購買率をまとめた。件数が少ない尾鷲市や熊野市および各町を除くと、「生鮮食料品」「その他食料品」はいずれの市でも地元購買率が高くなる傾向にある。

「日用品雑貨」「医薬品・化粧品」「家庭電化製品」は、地元購買率が8～9割以上と比較的高い市と、極端に低い市に二極化している。

地元購買率の二極化の原因として考えられる要因として、購入する店舗の種類を調査したところ、いずれも安価で多種を揃える大型専門店で購入するとの回答が多数を占めていた。また、大型専門店の立地状況を見てみると、極端に地元購買率が低い箇所については大型専門店の立地が少ない地域である。

「高級衣料」や「くつ・靴」は最も地元購買率の高い四日市市でも8割程度で、全体的に地元購買率は低くなっている。

市町別にみると、どの品目も地元購買率が比較的高いのは、四日市市、鈴鹿市、津市、松阪市、伊勢市などとなっている。

亀山市、志摩市などでは、「高級衣料」「くつ・靴」「家具・インテリア用品」「家庭電化製品」などが他の品目と比較して極端に低くなっている。

いなべ市や鳥羽市は全体的にどの品目も地元購買率が比較的低くなっている。

これらの要因として考えられることとして、消費者の消費行動の流れを踏まえてみると、それぞれの地域の周辺には、大規模な商業施設が多く立地する人口規模が大きい市があり、そちらに流出する傾向がある。

表2 品目別・市町別 地元購買率

		件数	生鮮食料品	その他食料品	日用品雑貨	医薬品・化粧品	高級衣料	くつ・靴	家具・寝具・インテリア用品	書籍・文具	時計・めがね・カメラ	家庭電化製品	贈答品
北勢地域	桑名市	29	86.2%	89.7%	93.1%	82.8%	41.4%	58.6%	82.8%	75.9%	65.5%	89.7%	65.5%
	いなべ市	18	77.8%	77.8%	55.6%	77.8%	22.2%	38.9%	27.8%	77.8%	55.6%	11.1%	61.1%
	四日市市	91	98.9%	96.7%	95.6%	94.5%	80.2%	80.2%	87.9%	91.2%	87.9%	95.6%	85.7%
	鈴鹿市	65	95.4%	95.4%	96.9%	93.8%	67.7%	75.4%	84.6%	95.4%	87.7%	95.4%	60.0%
	亀山市	18	88.9%	77.8%	83.3%	88.9%	16.7%	11.1%	11.1%	61.1%	44.4%	50.0%	44.4%
中南勢地域	津市	86	90.7%	90.7%	90.7%	84.9%	67.4%	68.6%	83.7%	83.7%	84.9%	90.7%	83.7%
	松阪市	63	96.8%	98.4%	96.8%	90.5%	66.7%	79.4%	87.3%	92.1%	90.5%	95.2%	77.8%
伊勢地域	伊勢市	35	94.3%	94.3%	91.4%	88.6%	62.9%	71.4%	82.9%	88.6%	77.1%	85.7%	85.7%
	鳥羽市	10	80.0%	80.0%	30.0%	30.0%	0.0%	0.0%	10.0%	40.0%	10.0%	0.0%	30.0%
	志摩市	20	95.0%	95.0%	100.0%	100.0%	50.0%	55.0%	50.0%	80.0%	55.0%	80.0%	95.0%
伊賀地域	伊賀市	47	97.9%	97.9%	89.4%	83.0%	51.1%	61.7%	76.6%	87.2%	72.3%	83.0%	76.6%
	名張市	22	86.4%	95.5%	90.9%	81.8%	63.6%	77.3%	68.2%	95.5%	68.2%	86.4%	77.3%

(注) 地元購買率で、同様の傾向を示す品目は省略し、特徴的な品目だけを抜粋して掲載している。



図1 市町別 生鮮食料品と高級衣料の地元購買率

買物の傾向が顕著な品目で、代表的なものとして生鮮食料品と高級衣料を取り上げて市町ごとにプロットした図を次のように示すと、大きく3つのグループに分けることができる。

<生鮮食料品、高級衣料ともに高い>

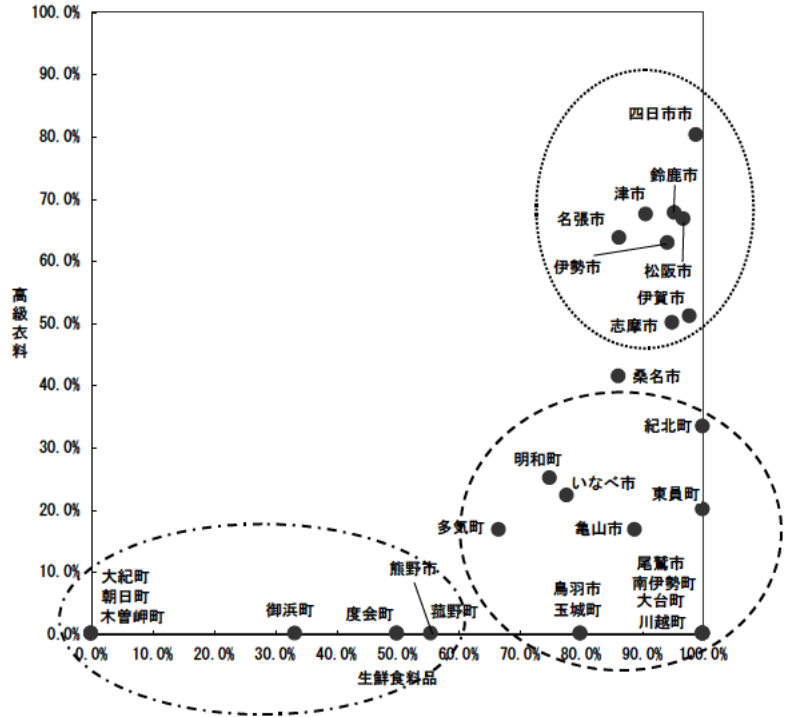
四日市市・松阪市・鈴鹿市・津市・伊勢市・名張市などが属する。地元である程度の需要を満たせるグループ。

<生鮮食料品高い：高級衣料低い>

亀山市や鳥羽市、いなべ市などが属する。生鮮食料品等最寄り性の高い品目は自市町内で購買されているが、高級衣料等の買い物は他市町へ流れているグループ。

<生鮮食料品、高級衣料ともに低い>

大紀町・朝日町・木曾岬町などが属する。ほとんどの品目で他市町での購買となっているグループ。



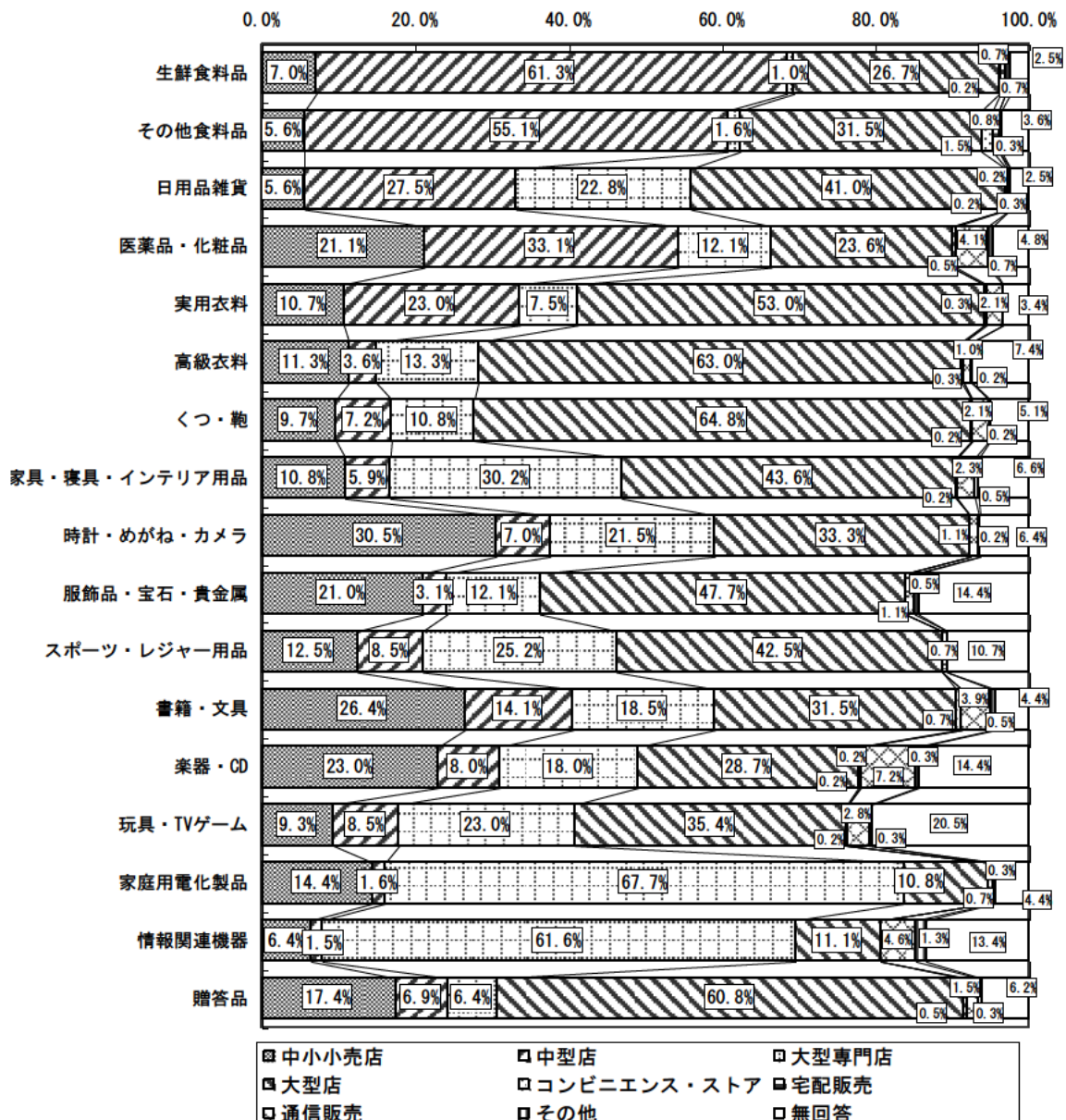
## ○ 商品を購入する店舗

商品を購入する店舗の種類をみると、生鮮食料品、その他食料品、医薬品・化粧品では「中型店」が、家庭電化製品と情報関連機器では「大型専門店」が、それ以外の品目では「大型店」がそれぞれ最も多くなっている。

食料品、医薬品・化粧品は中型店で、家庭電化製品、情報関連機器は大型専門店で、それ以外は大型店で購入する割合が高い要因としては、食料品などの最寄品に限らず、嗜好品や買回り品など多くの品種を取り扱う利便性の高い大型店は、どの地域にも多く存在するわけではなく、また郊外に立地していることが多いため自動車の利用を必要とするケースが多いと考えられる。それに対し、中型スーパーは取り扱う品種は多くないものの、買物する頻度が高い最寄品を多く取り扱っており、また多くの地域で相当数が立地しているケースが多いと考えられることから、近場に立地する中型スーパーで最寄品の買物を済ませる傾向にあると推察される。

また、情報関連機器や家庭電化製品については、高度な機能や専門性が求められることから、多くの商品を取り扱い、安価に購入できる大型専門店が人気があると考えられる。

図2 商品を購入する店舗



## ○ 街頭調査での一般商店と大型店等の使い分け－利用頻度－

利用頻度について比較してみると、商店街では「月に1～2回以下」、大規模店舗では「週に2～3回」がそれぞれ最も多くなっている。商店街では「毎日」が20.6%と、大規模店舗（15.2%）に比べて毎日利用する方の割合がやや高くなっている。

この要因としては、年齢別に見てみると、ほとんどの年代では大型店を普段利用しているが、70代以上については、普段一般商店を利用するまたは使い分けしていると回答した割合が高い。このことを併せて推察すると、多くの年代の消費者は、大型店を普段利用し週に数回まとめ買いするケースが多いものの、70代以上の消費者については大型店を普段利用せず、商店街を毎日利用するためと考えられる。

また、大型店は郊外に立地していることが多く、自動車を利用できず多くの荷物を持たない70代以上の消費者が公共交通機関等を利用し、まちなかにある商店街を普段利用していることが原因であると考えられる。

